



## ■ご挨拶

### ★可能性の芽

3年前、大島町でスペシャルオリンピックス日本の細川理事長の講演を聴いて感銘をうけ、是非とも富山の地にスペシャルオリンピックスの種を蒔きたいと強く思いました。一緒に行った清水さんと帰りの車中で、「必ず芽を出させよう」と話し合ったのを思い出します。最初は有志数名だけでどうなるのかと不安でしたが、その後山口会長をはじめ次々と協力していただける方が増え、アスリートも集まり、少しずつ確かな芽が出てきました。

タイミングよくその翌年、国内大会が長野という近県で開催されることを知りました。とは言え、SON富山設立準備委員会を発足してから半年足らずであり、トレーニング期間も短く、試合にもならないと思いましたが、参加することに意義があるということでフロアホッケーで出場することに決めました。これがアスリートには自信となり、組織としての勢いを与えたと思っています。あの長野では、皆が気持ちの上でひとつにまとまり、まさに新しい息吹がほとばしるのを感じました。私自身、コーチとして参加させてもらいましたが、アスリートが表彰台に立ったときの感動は、今、思い浮かべても目頭が熱くなってきます。

### 事務局長 吉田満

その後、水泳とボウリングが加わり、今年からはアルペンスキーと陸上をスタートさせ、プログラムも5種目となってアスリート会員の登録は60名を超えました。ファミリーの協力はもとより、コーチの方々も充実し、SON富山準備委員会は、ますます活気ある団体となってきました。

この11月5日、JR富山駅前 Cic 5階多目的ホールにおいて認証式が行われ、当準備委員会は念願の地区組織となることに決定しました。今後は、これまで以上に会としての責任が重くなり、組織としてより一層充実していくよう努めなければなりません。会員の皆様にも、「会が何かをしてくれる」のではなく、「各個人として何ができるのか」を常に意識していただきたいと思っています。

常に空に向かう新芽でありたい。

花や実となるのはまだまだ、まだまだ…。

最後になりますが、今後ともスペシャルオリンピックスへの皆様方のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

■西日本ブロック競技会に出場しました (9/17・18 金沢市)



陸上競技は、秋晴れの空の下で力いっぱいがんばりました



ボウリングは、一投一投に、大きな声援がとびました



水泳は、観客席からファミリーたちが汗だくで応援しました

## ■最近のできごと

### ★高岡七夕祭りの“ふれあいショップ”

広報副委員長 神島健二

8月1日から7日まで、高岡市御旅屋通りでは恒例の高岡七夕祭が行われました。アーケードの下には所狭しと出店が並び大勢の人が賑う中、SON 富山は広報活動の一環として、高岡町衆サロンが企画した高岡大和前空き店舗利用“ふれあいショップ”に参加して氣勢を上げました。

ふれあいショップではミニカフェを開き、Tシャツ・トレーナーの販売の他、SON 活動のパネル展示も行いました。7日間、ファミリーの中から毎日2～3名ずつ担当者を決めて、店内販売だけではなく歩道へ商品を持ち出したりして頑張ったおかげで売り上げを伸ばし、僅かながらも会の活動資金に繰り入れることもできました。

開催初日には高岡市長が訪れ、ファミリーと一緒に写真に収まっておられました。Tシャツのデザインや長野で開催された世界大会の経緯などをご説明し、市長ほか市民の皆様へ SON 富山をPRする絶好の場になったと感じています。

この企画は県西部地区の障がい者関係施設・団体等が共催し、障がい者の理解と社会参加を促すことと、空き店舗の利用で商店街を活性化させることを併せて期待するものでした。やがてこのショップが定例行事になり、いろいろな障がい者関係施設・団体の運動が広く認知され、障がい者が地域で安全に安心して暮らせる足固めになることを期待しています。



橋高岡市長も来店されました



店頭に出て、がんばってPRしました

## ■参加者の声

### ★SONに参加して

我が家の中学1年生になる長男は自閉症。私がSONの存在を初めて知ったのは今から約2年前でした。私たちがSONの活動に参加するようになって今年で一年余りになります。最初は、内容も理解しないままフロアホッケーに参加させていただきました。その頃は、周囲の方にSONの話をして「それなあに？」という感じで知名度も低かったのですが、長野での世界大会以降は、「知っているよ」と言ってくれる方が増え、嬉しく思っています。

SONへの参加の動機は、休日に体を動かすことでエネルギーを発散できるのではと思ったからです。というのも、息子は立派な体に溢れる体力の持ち主。それまで続けていた散歩やプールもマンネリ化しつつありました。その後、フロアホッケーは道具を使う団体競技であるということも魅力だと感じました。プレイという段階にはまだまだですが、仲間パスをつなげる練習だけでも普段はなかなかできない有意義な経験だと思っています。

### ボウリングプログラム・ファミリー 八木恵子

次に参加したのがボウリング。息子は何しろパワーだけは抜群ですから、最初の頃はレーンが壊れるのでは…と心配するほどでした。うまく力を抜くって難しいことだな～と思って見ていたのですが、回を重ねるごとに優しく投げられるようになってきました。ボウリングは、投げたあとすぐに視覚で結果がわかるので、息子が『くやしい』という気持ちを抱いた初めての競技でした。

そしてアルペンスキーにも挑戦。アルペンスキーでは景色の美しさや風の心地よさを経験できたようです。体を動かすだけで十分と思って参加したSONですが、息子も私も、大らかさと優しさに溢れるボランティアの皆さんに支えられて心身ともに開放され、心地よい時を過ごしています。一つ一つの「初めて」を積み重ねていくことがアスリートの可能性を引き出したり親子の成長に繋がっていると感じています。皆さんもアスリート、ファミリー、ボランティアとして参加してみませんか？

★SONの競技会の種類について

スポーツプログラム委員長 澤田守弘

去る9/17・18、金沢市において西日本ブロック競技会が行われ、富山からはアスリート、コーチ・スタッフを含めた選手団54名を送り出しました。さて、この西日本「ブロック競技会」とは一体、何なのでしょう？

SONがアスリートに提供する活動は大きく分けて二つです。それは、「トレーニングプログラム」と「競技会」です。このほかにノンスポーツプログラムもありますが、それはまた次回以降に説明します。さて、競技会は本来ならば、地区競技会→ブロック競技会→ナショナルゲーム(NG)→世界大会(WG)の順にステップアップしていくのが目標です。

ここで、SO日本の競技会は、あくまで地区競技会が基本です。その上にブロック競技会があります。SO日本のブロック分けは現在、東日本ブロック、西日本ブロック、九州ブロックの3つです。しかしながら、これまでは定期的にブロック競技会を開催するに至っていませんでした。というのは、これまでの開催方法は、ある程度安定した力のある地区組織が主催し他の地区が招待を受けるというスタイルだったからです。よって、主催する地区組織に多大な負担がかかるため、なかなか請け負う地区が手を挙げず不定期になっていたようです。

この現状を、SO日本としては決して満足していません。今回の西日本ブロック競技会は、参加した各地区にそれぞれの役割を分担し「みんなで作り上げる大会」にしました。これからはこのスタイルで本来の目標に近づけ、ブロック競技会の定期的な開催を目指します。また、裏事情としては、地区組織が充実し参加地区が47都道府県に近づきつつある今、“2006年ナショナルゲーム・熊本”を開催するに当たって、今までどおり希望者全員を受け入れることが事実上不可能になってきたことがあるようです。そこで、地区競技会やブロック競技会の充実を図り、一人でも多くのアスリートに競技会への参加を促そうという狙いもあります。

また、これらとは別に、昨年末、富山のアスリートが金沢市総合体育館でフロアホッケーの試合を経験したように、まだ準備委員会でしたけれども富山のメンバーがSON石川の主催の競技会に招待を受けたりもしました。SO日本は、公式な競技会以外にもこのようなお互いの地区同士の親睦や交流も薦めています。今はまだ、SON石川のほうに組織力も上なので招待を受けていますが、いずれは共催という形で開催したいものです。

■スタッフミーティング

広報委員長 上原恵

9月20日 9月22日県庁訪問関係、総会・認証式・SOデーイベント関係、FHコーチミーティング関係ほか

10月3日 ソニー生命様・日本女子テニス連盟富山支部様からの寄付受領の件、11月5日準備関係、10月17日役員会出欠関係、フロアホッケープログラムの今後の運営関係、JAIFA説明会関係、総会準備・総会案内発送関係ほか

10月11日 総会関係、認証式関係、会計担当者関係、フロアホッケーのコーチクリニック(12/17or18)関係ほか

<賛助金・寄付金をお寄せ下さった皆様(2005年6~9月)>

敬称略

	お名前	金額	お名前	金額
個人賛助	江端 慎二	6,000円	水上 勝博	6,000円
	山田 周平	3,000円	牧野 歌子	3,000円
	西田 直子	3,000円	金山 美奈子	3,000円
	福居 資隆	3,000円	松井 慶子	3,000円
	前田 浩和	3,000円	二口 逸郎	3,000円
	吉藤 国之	3,000円	山崎 郁夫	3,000円
	川岸 哲雄	3,000円	高瀬 祐子	3,000円
	高瀬 祐三	3,000円	高瀬 ふみ	3,000円
	大野 哲之	3,000円	大野 元嗣	3,000円
	大野 政代	3,000円	大野 裕司	3,000円
企業・団体賛助	株式会社 梅かま	10,000円	常木 育美	3,000円
寄付	Eフェスタ実行委員会	10,000円	二口 桂子	3,000円

賛助金

<個人> 一口 3,000円  
<企業・団体> 一口 10,000円

※ お問い合わせは、SON富山事務局あてメールもしくはファックスでお願いします。追って、賛助会員申込書を送らせていただきます。